



持続可能な地域づくりを推進する学びの共同体構築支援事業

学びと協働による 持続可能な地域づくり

「地域づくり」と耳にしたとき、どのようなイメージが湧いてくるでしょうか。その主体は誰でしょうか。行政主導の地域振興、自主的な住民組織による自治活動、NPO法人や有志ボランティアによる地域貢献、学校教育の一環として地域を舞台に行われる活動など、その形は様々です。こうした様々な主体と取組を意識的につなげ、中長期的なビジョンを共有しながら共に歩む時、どのような学び合いが生まれ、どのような地域づくりが可能となるでしょうか。ACCUではこれまで、国内外のパートナー団体による協力の下、協働の地域づくりに関する様々な事例を収集し、専門家や実践者の方々と共に、そのプロセスと仕組みについて、また学び合いを可能とする協働の在り方について語り合い、深めてきました。その一部をご紹介しますテキスト、映像資料を作成しましたので、是非ご覧ください！

アジア 4 カ国の地域づくり事例



- 日本 松本市における住民主体の学びによる住民自治を育む地域づくり 長野県松本市
環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会 岡山県倉敷市
隠岐島前教育魅力化プロジェクト 島根県隠岐郡
- インド 学校内の WASH(水と公衆／生活衛生)モデル展開プロジェクト
- バングラディッシュ ゴノケンドロ(多目的学習センター)を通じた持続可能な地域づくり
- フィリピン インクルーシブな地域防災管理プロジェクト

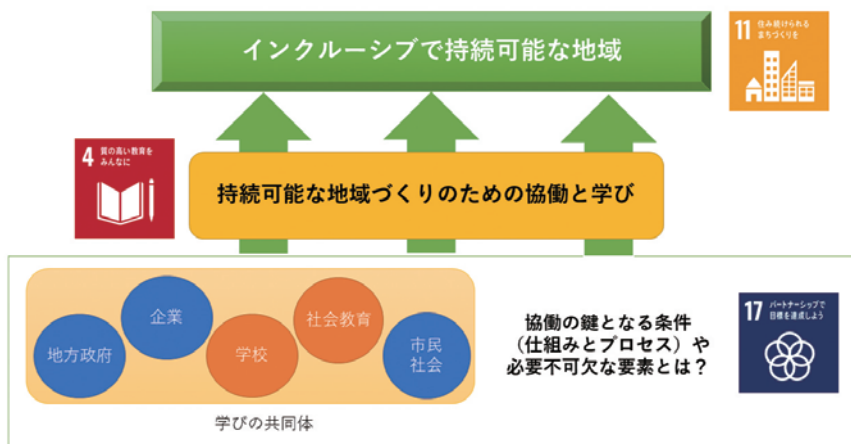
資料紹介

- ◎ アジア 4 カ国における持続可能な地域づくり事例集 ー学びの共同体構築に向けてー
協働の仕組みとプロセスについて、事例分析や考察とともにまとめたものです。
- ◎ 共に学び、地域をつくる ー実践者が描く協働の姿ー
協働の地域づくりを支えるものとは？実践者目線で協働の在り方について語って頂きました。
- ◎ まずは各事例の概要について動画で知りたい方はこちら [YouTube](#)
※ 2022年 3月現在、日本の2事例のみ閲覧可能です。



プロジェクトについて

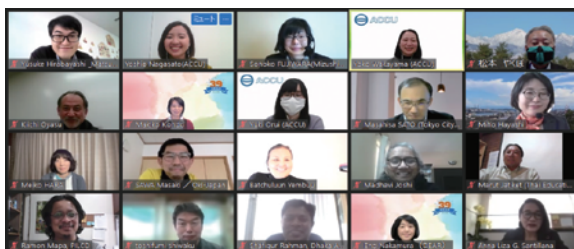
本プロジェクトではコレクティブ・インパクトに代表される、マルチステイクホルダー間の「協働」の概念を教育セクターに応用し、学校教育や高等教育機関による教師教育等のフォーマル教育、公民館やCLCなどによるノンフォーマル教育、NGOやNPOによる市民社会の実践など、これまでサブセクターごとに取り組むことの多かったESD事業を、持続可能な地域づくりという共通の目的と視点のもと推進してきました。



2019年に立ち上がった本プロジェクトは、インド、バングラデシュ、フィリピン、日本の協力団体のほか、タイや中国の実践者に加え、ノンフォーマル教育、ESD、地域開発などの専門家の方々にご参加いただきました。プロジェクト期間3年を通して、各国での地域に根差した協働事例の収集や、その収集した事例をもとに、地域づくりにおける協働を推進していくプロセスと仕組みについて、またその中で重要となる要素やコンセプトについて議論を深めました。

国際シンポジウム

2022年2月9日に「持続可能な地域づくりを推進する学びの共同体構築支援事業 国際シンポジウム」を開催しました。日本国内のパートナー団体である松本市教育委員会生涯学習課、公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）、島前ふるさと魅力化財団の皆様、地域づくりにおける協働を推進するために重要な要素やコンセプトについてそれぞれの事例を発表いただきました。



発表の中では、「自治力」、「変化しながら価値をともに創り出す、ゆるやかな関係性」、「価値観の間の『違い』や『揺らぎ』」を超えた共在・共学・共創」などがキーコンセプトとしてあげられ、その後のディスカッションの時間では国内外の参加者とともに議論を深めました。

